

江戸から 見える未来

江戸期ニッポンからの贈り物 地域の輝き、暮らしの充実



季節ごとの農耕の様子が描かれた九谷焼(「九谷色絵農耕煎茶碗」日本農書全集 第72巻より)

特産物列島と 生活文化の誕生

日本人の暮らしのものは江戸時代にできあがった。一口に江戸時代といっても三〇〇年ちかくあるが、この間に日本の各地に名産、名物が数多く生まれ、日本は特産物列島と化した。それらの多くは現代まで引き継がれている。暮らしの土台である衣食住を中心とするいくつかをあげてみよう。

〈衣〉黄八丈(東京、越後縮ちぢみ(新潟)、奈良晒さらし(奈良)、丹後縮緬(ちりめん(京都、西陣織(京都、加賀絹(石川)、河内木綿(大阪)、真岡木綿(栃木)

〈染料〉最上紅(紅花、山形、阿波藍(徳島)

〈食〉米(各地)、茶(宇治・京都、静岡)、黒砂糖(沖縄、鹿児島)、くじら(和歌山・佐賀・長崎、酒(兵庫、京都)、しいたけ(大分)、昆布(北海道)、塩(徳島、兵庫、紀州みかん(和歌山)、三輪素麺(奈良)、大根(練馬、東京、尾張・名古屋)、浅草海苔(東京、吉野葛(奈良、伊勢えび(三重)、若狭鯛(福井)、広島牡蠣(広島、土佐鱈(高知)

〈食器〉伊万里焼(佐賀)、瀬戸焼(愛知)、九谷焼(石川)、備前焼(岡山)、萩焼(山口)、砥部焼(愛媛、信楽焼(滋賀)、清水焼(京都)

〈漆器〉津軽塗(青森、会津塗(福島)、輪島塗(石川)、春慶塗(岐阜、他、大内塗(山口)

〈住〉杉材(吉野・奈良、ひのき材(木曽・長野、

畳表(岡山)、和紙(福井、ろうそく(会津)こうした暮らしに必要な基本財の生産技術、流通・販売のリアルな記録が『日本農書全集』全72巻である。とりわけ第45巻から59巻にわたる特産、農産加工、園芸、林業、漁業の巻には、生活基本財の生産技術と産地を作り上げていく過程が詳細に紹介されており、現代の産地づくりと地域興しに多くの示唆を与えてくれると同時に、郷土の生きた歴史を学ぶ格好の資料となっている。

●酒つくり

第51巻の『重宝酒造記』(どうもうしゅぞうき)は、子どもにもわかるように書いた酒つくりの本という意図だが、酒造のポイントの一つである麹のねかせ方については次のように記している。

○(麹をねかせた)その日の夜にはいつて灯火を見透かすと、ところどころ花が付き、三分の一ほど蒸米がはぜている。これを「麹の足」というのである。このときは人肌くらいの温かさだろう。もし麹室が冷えていて、このときに温かみがなく足が見えなければ、作業を延ばし、四時間から六時間後、ひよとして翌朝か翌日の昼までかかって、麹の足がでしだい作業をする。これは口伝である。

伊丹の酒つくりの秘伝が現代語訳と解題つきで読めるのがうれしい。

●紀州みかん

一方、みかんで名を成したのが紀州和歌山。紀州みかんのブランドは江戸時代に確立された。その様子を克明に伝えるのが第46巻の『紀州蜜柑伝来記』である。

●津軽塗

津軽塗はそのいいねいな重ね塗りで有名だが、この技術も江戸時代に源がある。その秘伝を伝えるのが『塗物伝書』(第53巻)だ。そこでは紋紗塗り、白塗り、蒔絵の方法、金箔の置き方など、塗りに関する技術が数十項目にわたって伝えられている。本書の塗り技法を追体験して解題を書いた佐藤武司前大名誉教授は、「江戸時代の津軽塗技法の中には、蒔絵技法や塗立の優れた技に関する情報」の収集に努力した跡が見られる。これらの技法の中で、とくに変塗(かわりぬり)に関する技法が伝承されたことが『塗物伝書』からうかがうことができる」と述べ、地域の創造性という点を理解するうえで、大きな価値を有している、としている。



農業生産を中心とした江戸期庶民の生活世界全般を記した農書。二四年もの歳月にわたり全国から三百余点を翻刻、現代語訳。「環境を汚さない当時の農法を紹介して、現代の暮らしに大きな示唆を与えた」として、朝日新聞社・第3回「明日の環境賞」受賞。(編集委員) 山田龍雄・飯沼二郎

【別巻】
『収録農書』一覧 分類索引
国土保全、自然農法、地域教育など「現代の課題を解くキーワード」からの農書案内と成立地、分野別などの農書一覧。農法・農作業、衣食住、年中行事・信仰など26項目25万件の分類索引。
●24000円



地方が中央から独立し、侵略や自然破壊なく地域社会を充実させ、来るべき循環型社会、成熟社会のモデルとして世界的に注目される江戸時代。その魅力、各地道府県(と、行政、自治、産業、教育、学芸、福祉、民俗など多彩な分野、約50編の物語で描く。●全50巻・都道府県別編集、B5判、上製、平均380頁、物産一覧、カラー口絵つき、揃価225000円

【各道府県版】岩手・神奈川・長野・京都・福岡 各3500円、他各4500円

【特別編集版】東京編「大江戸四季の音巡り」付10000円、沖縄編CD「沖縄を聴こう(沖縄民謡)」付7000円、大阪編「大阪の歴史力」100000円(索引巻)「近世日本の地域づくり」2000のテーマ「開発、物産、祭り、教育など多彩なテーマで本全集の記事をガイド」●50000円



近世から近代へと移る中で農業はどう動いたか―日本の自然観に立ち「農書」の世界に生きる老農と、近代農学者との論争・協力を通じて築き上げられた明治農業法をその原典から見直す。近代科学の受容と変容(科学の土着化)を研究する

13 林産・林業	65000円
12 病害虫・雑草・農薬	55000円
11 農具・耕地整理	55000円
10 土壌・肥料	55000円
9 養蚕・養蜂・養魚	55000円
8 畜産	50000円
7 果樹	55000円
6 野菜	55000円
5 特用作物	55000円
4 畑作	45000円
3 稲作	55000円
2 稲作・一般	45000円
1 稲作	55000円
0 稲作・一般	45000円
5 特用作物	55000円
4 畑作	45000円
3 稲作	55000円
2 稲作・一般	45000円
1 稲作	55000円
0 稲作・一般	45000円
揃価	700000円

日本農書全集

全72巻・別巻1

江戸時代人づくり風土記

全50巻 都道府県別編集

明治農書全集

★科学の土着化への足跡



あそび日の様子 稲刈り上げの日の祝い、ごちそうを腹いっぱい食べて骨休み(「農業園絵」日本農書全集・第26巻より)